

## PRISMA 声明を用いたランダム化比較試験を対象としたメタアナリシス論文の質評価

## 【緒言】

医療の質に対する社会的関心の高まりに伴って、「根拠に基づく医療（EBM, evidence-based medicine）」という概念が 1991 年に Guyatt によって提唱された。そうした状況を踏まえて、ランダム化比較試験のシステマティックレビュー、メタアナリシスの報告ガイドラインである QUOROM (Quality Of Reporting Of Meta-analyses) 声明が 1996 年に発表された。その後、PRISMA (Preferred Reporting Items for Systematic reviews) 声明が 2009 年に発表された。PRISMA 声明は QUOROM 声明に修正を加えたものであり、PRISMA 声明は徐々に認知されてきており、コクラン共同計画をはじめとした 5 つの機関と Lancet をはじめとした多数の雑誌から支持されている。

そこで、本研究においては PRISMA 声明の発表以後に執筆されたメタアナリシスの論文において、PRISMA 声明によって定められている 27 項目およびフローチャートがどれほど記載されているのか検証し、メタアナリシス論文の報告の現状を理解するとともに、PRISMA 声明発表によって、論文の質が向上したのかどうかを検討する。

## 【方法】

## 1. 評価対象

評価対象とする論文の選択基準はランダム化比較試験のみを対象としたメタアナリシスを行っていること、JAMA 誌、Lancet 誌、NEJM 誌に掲載されていること、2011 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までに出版されていること、とした。今回の研究においては、PubMed 検索によって評価対象論文を収集した。本研究における質の評価は、PRISMA Checklist を用いて行った。Checklist に記載されている 27 項目に関して、記載が論文中にあるかどうかによって行った。

## 【結果】

方法にて述べた検索式を用いて PubMed 検索を実行した結果、225 本の論文が得られた。そのうち 166 本(73.8%)が適格基準を満たさず除外され、59 本(26.2%)が対象論文として適格だと判断された。27 項目の PRISMA Checklist により評価した項目の平均記載項目数は 22.9 項目であった。平均記載項目数の多いセクションはタイトル、抄録、考察、資金のセクションであり、平均記載項目数の少ないセクションは方法、結果のセクションであった。特に PRISMA 声明において詳細な記述が求められている方法についての項目の記載が不十分である傾向が見られた。